

令和7年度第3回広島市都市デザインアドバイザー会議 会議要旨

1 開催日時

令和8年(2026年)3月25日(水)10時00分～12時05分

2 開催場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

3 出席者

出席委員(7名)

田中 貴宏、角倉 英明、今川 朱美、高田 由美、吉田 幸弘、中村 圭、
塚本 梓織

4 議事

広島大学本部跡地における平和に関する「知の拠点」(仮称)整備事業について(2回目会議)

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者

一般傍聴者 2名

報道関係傍聴者 0社

7 会議資料

会議次第、委員名簿、出席者名簿、配席図、議事資料

8 会議要旨

1回目の会議での委員からの意見等を踏まえた設計内容について説明を行い、デザイン上の配慮事項に関する提案を受けた。今後の検討事項は次のとおりである。

(1) 平面計画について

- ・ 外部から建物内の「人け」が感じられるような平面計画になるよう検討してほしい。
- ・ 知の拠点としてふさわしい建物になるよう、3階及び屋上を市民等に開放してはどうか。

(2) 屋上部分のハイサイドライトについて

左右対称であるかの確認。

(3) 外観について

- ・ 増築部分のサッシの素材や色が、保存部分のものとマッチするよう配慮してほしい。
- ・ 外壁目地のピッチを、保存部分の窓のピッチと揃えるなど検討してほしい。
- ・ 保存部分と増築部分の調和について配慮してほしい。
- ・ 北側玄関廻りのデザインの考え方を整理しておくこと。

(4) その他

- ・ 保存部分のインテリアなど、象徴的な部屋があるとすれば残した方がよい。
- ・ 平和に関する知の拠点というのをもっと伝わりやすくするために、見える形としてアートやモニュメントの設置を検討してほしい。

- (5) 既存材料の活用について
撤去する既存の材料を活かす方法を積極的に検討してほしい。

以下は、会議所掌対象外の意見であるが、委員から都市デザインに関連して特に重要と
いうことで意見があった。

- (6) 平面計画について
- ・ 両大学が気軽に交流できるスペースやプランの計画を検討してほしい。
 - ・ 1階展示前室からラウンジに向かう扉は、バリアフリーに配慮した仕様にしてほしい。開き戸とすると動線も阻害する。再検討してほしい。

【会議概要】

○地井都市デザイン担当課長

(開会挨拶、配布資料確認、出席者紹介及び議事説明)

○田中座長

それでは、本日の議事「広島大学本部跡地における平和に関する「知の拠点」(仮称)整備事業について(2回目会議)」の説明をお願いします。

○森次行政経営課長

(議事「広島大学本部跡地における平和に関する「知の拠点」(仮称)整備事業について(2回目会議)」の説明)

○田中座長

ただいまの説明に対して、御意見等あればお願いしたい。

○角倉委員

二点気になることがあり、一点目は平面のプランニングの話で、増築棟の部分が特に、全て個室型でまとめられていて、実はほとんどコミュニケーションがないプランニング、動きがないプランニングになっているのが見受けられる。ただ、市民開放部分については、比較的広く取られていて、目的が達成できるのかなと思うが、二階、三階部分の居室がどうしても小さな個室になってきてしまっているため、広島市立大学、広島大学が交流もきちっとできるようなプランニング、配置にさせていただくほうがよろしいのではないかというふうに思う。近年の例えとしてオフィスなんかで言えば、非常に気軽にみんなが集まれるような、かなりフラットな場所が計画されることも多い。そういう概念も含めて、少し新しい大学機関としてのプランニングというものを、導入されていったほうがよいと私自身は考えているので、ぜひ検討していただきたい。

二点目は、解体と保存に関して歴史的保存再生に関する先生方と学識の方を含めて議論をされた上での構造ということで、そこを尊重すべきだと、私自身はそういう立場を持っているが、一方で、解体するということ自体に対してもう少しデザイン的な配慮があるのもよいのではないかと考えている。逆に言うと解体する部分をどう残すのか、このプロジェクトの中でデザインされてもよいのではないかと考えている。例えば、解体の方法はなるべく丁寧にして、解体すべき材料を丁寧に取り出して、その後どう活用するのかというところまでやっていただけると、理学部一号館というものが、異なる形になるかもしれないが、保存されていく、残っていく、そういう可能性があるのかなと思うので、ただ解体してそれを廃棄として捨てていくという方向だけは避けてほしいと思っている。

○森次行政経営課長

二、三階については、両大学との協議により、現在の平和に関する研究教育の機能や執務環境を移転後も維持することを踏まえ、諸室のレイアウトを行っている。御懸念の点については、物理的には共用セミナー室を設けている。今後、施設供用時まで時間もあつた

め、大学側にも委員の御意見を伝えて、運用の中でこういった交流促進に関する仕掛けができるのかということも相談しながら進めたいというふうに考えている。

二点目の解体する部分の資材の活用という点について、既に欠落している部分、あるいは窓周りを中心に大分毀損している部分、一見きちんとしていたものでも、実はタイルの裏のモルタルやコンクリートといったものが劣化しており貼り替える必要がある部分などには、解体する部分のタイルをできるだけ丁寧に取り、保存する建物に活用する予定である。その他、外構に使う材料としての再利用や、市民の方も利用できる展示室で紹介するという事も検討していく。

○角倉委員

増築する北側については、自由に計画できるため、広島市立大学、広島大学が交流できるようなプランニングを検討して頂きたいと思う。タイルについても、次への残し方みたいなものがここから発信できるというのは非常に大切だと思うため、丁寧にやっていただきたいと思っている。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箆島氏）

E型の建物の痕跡を残すということで、テラスについては解体部分の基壇部の石を床材として再利用したり、アスファルト舗装の種石として再利用できれば良いと考えている。そういう意味で、できるだけ建物の外形も含めて残していこうと思っている。

テラスについては、当初はテラスの一階の床自体を残そうとしていたが、躯体の劣化がかなりひどく難しそうなので、それは再現という形でやっていこうと考えている。

○角倉委員

被爆を受けた実相を持つ建物ということで、残していくということに努力いただければと思っている。また、この残し方を広めていくことで、こういったものに対する理解が深まると思っている。

○田中座長

一点目のプランニングの話に関しては、文部科学省からの指示もあり、現在、大学施設では、コミュニケーションを取るようなスペースをどうやって造っていくかということが大きな課題になっている。いろんな方々が気軽に入って行って、そこで交流するということが新しい研究のアイデアだったり、新しい発見のアイデアにつながるのではないかと考えている。新しい空間整備を進めており、そういう意味でいうと、平面を見たときに従来のオーソドックスな形になると感じた。共用セミナー室を交流スペースとして使っていくと思うため、その辺りで少し検討して頂きたいと思った。

○吉田委員

両大学の各部局のほうからの意見や要望はどの程度反映されているのか。建築の段階である程度要望や御意見は生かされているのか。

○森次行政経営課長

設計業務に当たっては令和6年度の秋から令和7年度の夏ぐらいまで、両大学の教員の方も含めて調整をしていた。令和6年度以前も調整を行っており、広さやレイアウトという点は教員の方の御意見を既に踏まえたものと御理解いただければと思う。

○吉田委員

建物の保存について、内部の部屋の保存というのは、当時実際に機能していた部屋がそのまま残るような、そんな部屋はあるのか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

保存部分のインテリアについては、現状をそのままできるだけ再現するという方向で考えている。当然ながら、耐震補強とか躯体の補修なども行わなければいけないため、一旦材料は取り外すが、できるだけ取り外した材料を再取り付けするような形で、現状の大学として使われてきた姿を残すという方向で今整理している。

○吉田委員

以前の機能と現在の機能は違っていると思うため、なかなか多くはできないと思うが、何か象徴的な部屋があるとすれば、確実に残していただいたほうがよいと思う。

内部空間について、保存部分と新たな増築部分の境のデザインというのが非常に重要になってくる。保存部分と増築部分で明確に機能を分けるようなことも考えられてもいいのかなと、このプランを見て思った。

森戸道路から見たときに、この建物はシンメトリーであるが、屋上部分のハイサイドライトが左右対称ではないため、この辺は少し何か気を遣っていただきたいという思いがある。

増築部分がそれぞれ研究室等になる場合、窓のサッシなどの素材や色が、保存部分の被爆の建物ときちんとマッチするのかなど、その辺も配慮していただきたいと思っている。

増築部分の北側の面について、ここには何かデザイン上の工夫があってもいいと思う。北側の壁面は直接被爆したれんがであるため、正面側に使う計画であるが、多分もう少し余るはずなので、デザインの中で何か生かせるような方法を見つけていただきたいと思っている。

○森次行政経営課長

建物の機能面については、例えば施設の水回り、トイレ、給湯、書庫のような躯体に荷重がかかるようなものや、エレベーターなどは増築棟側に配置している。

北側のタイルの保存範囲は、南側に比べてやや多く残す予定である。これについては、被爆の痕跡が残っている部分は、あえて被爆直後のタイルが落ちた状態のままで保存するという事をお伝えしたいために、北側の保存範囲を少し多く残す計画としている。

3ページ目の左下の北東側イメージ図で、一階、二階テラスを爆心地側に少し傾斜をつけた構造にするという意匠を今計画している。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

ハイサイドライトについては、左右対称になっている。

○吉田委員

窓の数が十枚と九枚で違うと思ったが。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

パースの見え方でそういうふうに見えるのかもしれないが、平面図的には左右対称にしている。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

サッシの話が少しあったが、現在のサッシはかなり腐食が進んでおり、既存のまま使用するのには現実的には無理なため、全部取り替えるが、今の意匠を再現するような形で、複層ガラスにして断熱性能を上げるということを考えている。色についても、現状の色に近い形のものを考えている。

○今川委員

機能の面で書庫をなるべく新棟のほうに置いたとおっしゃっていたが、書庫3は旧棟に配置されており、書庫が3か所に分かれている。これはそれぞれのセンターからの要望で分割されたのかが知りたい。

あと広大センターのほうだと思うが、広大卒業生の中国新聞社にお勤めであった退職された方で、たくさんの平和のための資料をお持ちの方がおり、大変希少なものだというふうに聞いている。それらを引き受けられる場所がないということで、個人宅に保存されたままだというのを聞いているが、それらをこの際こちらに引き取るという話は出なかったのか。個人宅に平和のための資料があるというのが4、5件あると聞いており、それらを集めてくると大層な量になるが、それをなぜ二つの大学で共有するというのをしないのか。長い目を見たときに、ここに行けば平和に関する資料が何でもあるという状態にするという交渉があるのであれば、なぜ一か所にまとめて、そこを共用スペースにしないのかというふうに思った。

角倉委員がおっしゃっていた新旧の接合部のデザインについて、イギリスの古い建物の保存の仕方というのは、こういうケースであればまず、外壁をなぜ面一にしているのかということも思った。例えば新しいほうを少しだけ控えて、古いほうの建物の断面に当たる場所を真っ黒に塗り、ここからこっちは違うということを見て分かるように示すという方法もある。

テラスをEシェイプにしているが、バスを避けるために一か所だけへこんでいる。それであれば今のE型がそのまま記憶として分かるように輪郭を取るっていうふうにすると、新棟を旧棟より少し両脇を控える形で建てれば、テラスが旧棟のところと同一ラインになるように伸びてくる。そうすると、なおさらもともとはE型だったということが誰の目で見てもよく分かるようになると思った。

新しく玄関を造られており、その張り出し部分というのも正方形の屋根がくつつく、ひさしがくつつくような形になっているが、なぜか内側の間仕切り壁と同じラインで真っすぐに切断をされている。中のプランをそこに示す必要はなくて、なぜ新しいひさしをここに持ってきたのか、四角い正方形の物体を差し込んだような形にしなかったのだろうかというふうに思ったため、このデザインとなった理由を教えてほしい。

○森次行政経営課長

この設計業務の前段階の基本計画の時点で、2階、3階については平和に関する研究教育のゾーンとして、両大学が使用するフロアにすることとしており、大学側の意向を踏まえ、両大学に必要な諸室をそれぞれ設置することを決定し、設計業務を進めてきた経緯がある。書庫についても、2と3と分かれているのは、大学側から基本的に別々に設けてほしいという意向があったものである。両大学で使える資料については、先ほどの共用セミナー室であるとか、紫のゾーンのところに置いておくという話も今後両大学の運用の中で出てこようかと思う。そうした収納力というのは、あると思う。ただ、基本的には大学の意向に沿って今の形に、レイアウトにしている。

書庫3については、確かに旧棟側に配置しており、これについても大学との協議の結果旧棟側に配置した。積載荷重の点があるため、新棟側に配置するという案を含めて大学のほうに提案したところ、大学内での動線や利用勝手の観点から、ここに配置してほしいという意向に沿ってレイアウトしている。

なお、個人所有の書籍等の取扱いについては、2、3階が平和に関する研究教育のゾーンとして、両大学が使用するフロアであることから、大学側に相談してみたいと考えている。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

増築部分の外壁が保存部分と同一面になっているという御指摘があったが、基本的に元々のE型の建物の痕跡を継承するというので、あえて元の外壁の位置に増築部分の外壁を持ってきている。

爆心地方向を向いている一階のラウンジのテラス上の形状について、これについては歴史専門の保存・活用を専門とされている先生にも相談しながら進めているが、E型の建物の痕跡を少し損ねているのではないかという御指摘があり、再考中である。

○今川委員

バスに譲ってテラスが一部短いというのはやむを得ないのか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箆島氏）

小学生の社会科見学なども想定されており、バスをどうしても入れたいという話があったため、テラスが少し狭くなっている。

○吉田委員

先ほど床材でE型の表現をするとおっしゃっていたが、この床材の素材を変えることは可能なのではないか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箆島氏）

その辺は検討していく。

○今川委員

E型の3本のうち真ん中が太いのは、もともと真ん中の棟だけ太かったのか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箆島氏）

これも既存を再現している。

○今川委員

資料1 ページ目に写真があるが、三本とも同じような幅に見える。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箆島氏）

柱の通り芯は合っているが、保存部分の柱が非常に細く、増築部分の方は今の基準で設計しているため、柱が大分太くなっている。その分少し太めに見えるのかもしれない。

○今川委員

かなり大きくなっているように見える。

○田中座長

後で少し確認いただくということと、あとバス駐車場のところは先ほど吉田委員がおっしゃっていたように、床材である程度対応できていて良いのかなと思った。

○今川委員

それであれば、本当のEの形に、普通の自家用車のところももう少し工夫できないか。

○田中座長

駐車場の舗装を変える工夫をしている。

○中村委員

資料の2 ページの平面計画の一階部分について、1階の薄い黄色い部分が市民利用エリアで、1階南側が施設管理者用エリアになって、市民の方は正面の入口か北側から入ってくる。展示室などを見られる方は、直接そこを見て帰られるのかなど。用事がある方は事務室に行かれると思うが、事務室が南側一番奥にあり、何となく一階部分に「人け」がない感じがこの図面からは見える。常に人がいる場所は一階部分では事務室1、守衛室で、ほかは基本無人なのではないかと思う。2階、3階は研究者の方や大学院生の方がいるが、その様子が建物の外から何となく見えづらい。建物の周りには市民の方が、公園に遊びに

こられると思うが、そのときに建物内に「人け」を感じるのだろうかということが気になった。

せっかく広島大学という町の拠点だった場所に、また新たにいろんな人たちが集まってきて、広島の知の拠点と言いつつも、平和の拠点ということと、世界的な拠点にしたいという思いもあると思うため、せっかく専門の方が集まってここで毎日出勤してこられるという、その様子が直接見えるというのは大事なことだと思う。そういう意味では、いろいろな展示室が前にあったほうがいいというのは分かるが、事務室の位置は結構大事なのではないかと思う。いろんな交流がこれを機会に進むとか、研究者の方が市民の方の姿を見ながら研究される環境というのは、ここの特徴だと思うので、そういう演出みたいなものがやっぱり1階部分にあるといいと思う。それを踏まえると、展示室は確かに1階にあっていいと思うが、南側の倉庫や女子・男子更衣室は、1階の旧棟ではなく、3階とか2階に配置し、逆に共用セミナー室などが1階に配置されてもよいと思う。質問としては、セキュリティの問題はあると思うが、事務室を南側に配置した理由が知りたい。

市民の方が屋上や3階の窓から町や公園の様子を見ることができると、建物への、親しみとかも少し変わるのかなと思う。

○森次行政経営課長

事務室は南側のほかに、正面からのアプローチの御案内等々の対応のために、正面にも事務室2を設けている。北側のアプローチについては、事務室は設けていないが、北側から入って来られた方を、たまり場的なスペースとしてラウンジで一旦受け止め、展示室などの施設のご案内をする仕掛けを設けたいと考えている。

事務室1の配置については、真正面と北側が建物入口という動線の中で、1番人の流れが薄いところがやはり事務室、管理的なゾーンがいいのではないかとということで、これは我々市のほうがそうした人の流れ等々踏まえて、今のレイアウトにした。

○今川委員

展示準備室について、修学旅行とかで来られた小学生のために、平和教育をしようと思っている博士後期課程の方たちが来られるときのための展示準備室なのかなと思った。高校であれば教科準備室というのは先生の職員室になるが、そのようなイメージでここに展示室を配置したと想像していたため、ラウンジから入ってすぐ、人の気配が分かるところに展示室2と3を分断して、ここに準備室を配置したという見方をしていたが、そうではないのか。

○森次行政経営課長

準備室は展示物の入替えや搬入、搬出等で、展示物を展示する前に一旦ここで整えて展示室に持っていくという用途で、展示準備室といったものを設置している。

例えば、広島大学の歴史や建物自体の被爆の歴史に関する展示のほかに、広島市立大学や広島市等も参画して、平和に関する研究教育の取組、核兵器廃止に向けた取組といった研究内容の成果というものを、増築棟側の展示室4で考えている。そういう研究の取組も、この展示室で展示するというのを今計画している。

○中村委員

展示前室と、北階段やラウンジがあるスペースの間の実線の部分は壁があると思うが、二重線は引き戸なのか。例えば展示室4でいうと、左側はスライディングウォールになっているため、がらがらと開けられると思うが、下のほうの二重線はどのようなものか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

展示室4の下側の二重線については、ガラススクリーンである。

○中村委員

展示前室とラウンジを仕切る扉もガラス面になっているのか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

そこもガラススクリーンとなっている。

○中村委員

ではこのガラススクリーンからアクセスできるのか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

二重線に縦線が入っている部分が出入口の扉である。

展示室は、閉館後はセキュリティの観点から、きちんと閉じたいということで、ガラススクリーンに扉をつけるという計画にしている。

展示室4のスライディングウォールについても、ガラス入りのスライディングウォールで、閉まっても中の展示物がある程度見えるように考えているところである。

○今川委員

展示室3の前は引き違いになっているのか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

開き戸である。

○今川委員

ラウンジ側に開くのか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

そのとおりである。

○今川委員

これは一枚扉で平和学習室の横の壁になるように開くのか。開き扉で観音開きであれば、動線を阻害するのではないか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

自閉式のため、人が通った後はまた自然に閉まる。

○今川委員

北階段の廻りは人が通行できるようになっている。人が通っている最中に、扉が開いて動線を阻害する可能性があるのではないか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

日常的には扉の左側を平和学習室側に開くという考え方である。

○今川委員

車椅子の方はどのように開けるのか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

基本的には長い押し棒を使うため、開けることはできると思う。

○井上施設整備担当課長

ここは検討する必要があると思う。例えば八枚切りで折れ曲がって両側に開く、開館時はそういう形だけど閉館したときはそれをまた閉める。常時開けておくかは検討する必要があるが、そのようなものを考えてもいいのかなと思う。先生がおっしゃられたように、開いたままだと動線が遮られてしまうため、ここは検討させていただきたいと思う。

○今川委員

バリアフリーを考えているのなら、引き違いも検討するのか。

○井上施設整備担当課長

そのとおりである。

○吉田委員

受付はこの建物にはないのか。正面玄関のほうから入った際に、行き先が分からない方はどこにまず行けばよいのか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

施設内の案内サイン等はあるが、施設全体の総合案内的なものは、事務室2で機能を持たせようと思う。

○中村委員

玄関ホールの左右の点線は、扉がある計画なのか。玄関ホールから入り事務室2に行くには、玄関の扉に加え、もう1度扉を開けて事務室に向かう計画であれば、なかなかたどり着けないのではないか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

ここについては防火上の問題があってシャッターを設けているが、日常的には開いている。

○高田委員

保存のときによく窓をどうするかというのは結構検討になるところではあるが、同じようなものでまた造ってもらえるということで、よかったと思っている。スチールでできているが、それも再建するのか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

サッシはどうしても経年のさびで傷んでしまうため、アルミに置き換えるが、若干見付とかがどうしても変わってくるが、その辺はオーダーのサッシでできるだけ細い形にしたいと思っている。

○高田委員

窓のところでまた随分印象が変わってくると思うので、検討をお願いしたい。

新しい外観について、保存部分の意匠に配慮しつつ、時代を区別できる計画とするということを掲げられていて、それに基づいて設計されたと思うが、この第一印象は全く別のものとか、調和とかそういうものはあまり感じなかったため、配慮したところがどういふところなのかを聞きたい。E型を解体するため、E型の部分を壁面と合わせるとか、床材で表現して解体部分を残すというところは、今日のお話を聞いて、なるほどなというふうにしたが、全体的に見たときに、全く違う建物に見えるというか、そこには違和感を持っている。

今川委員が言われた、イギリスではちょっと位置をずらしたりするというお話があったと思うが、もう少し調和させていって、素材が少し似ているが、近くに寄ったら区別ができるというか、そういうことの一つのために少しずらすという手法を使ったりしていると思うが、区別というところが、時代を明らかに区別できるということなのか、昔のものに似せてちょっと調和させているが、現在のタイルの焼き方を変えているとか、色が少し違うとか、そういうふうな区別の受け取り方や考え方、そこに少し違いがあるというか、私が違和感を持っているのかなというふう思う。

○今川委員

十数年前、私が広島に来たときに、広島市役所もそうだが茶色いタイル張りで、広島市はそういうタイル張りとかれんが造りとかそういった外観の建物を建てるようにしている

という、広島都市計画、歴史みたいなものを習ったが、それってどこ行ったのだろうか
と常日頃思っている。今回も旧建物と似たような素材で外壁を造るが、時代の区別が
できるようにするというのが本当は、高田委員がおっしゃるように正解なんじゃないか
というの私は思っている。

○高田委員

保存の区別というのは、建物を自分の考えで保存をしてきたということに対して、
ヴェニス憲章で指針を出しているというふうなものだと思う。そのため、ここを新しく
したということが分からないといけないというふうな区別で、明らかにぱっと見て分
かるという区別とは少し違うのではないかというふうに思っていたが、その辺のこ
ともお尋ねしたいと思う。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

今回の場合は対比的につくっており、同じようなタイルを貼ることで、本物っぽく、
保存部分っぽく見ると紛らわしい、誤解を与えるということで、歴史の先生とも相
談しながら今ここに至っている。ただ、同じようなタイルを使うという意味では、
E型のウイングの間の部分にルーバーをつけているが、れんがルーバーというもの
を考えており、そういうところで古い色を入れながら、全然違う技術によりれん
がタイルを表現することを考えている。あくまで今の技術を用いたれんがの使い
方という格好を考えている。

○高田委員

それはすごくいいと思う。レプリカを造ることはやめたほうがいいと思っ
ており、明らかに何か似せて造っている偽物っぽいものは絶対にやらないほう
がいいと思う。東京駅の柱、丸いドームのところの柱の上に、この年に造った
というローマ数字が書いてある。そういうふうに文字として書くという方法も
あると思うが、先ほど言われたように、同じような色味でれんがを現代の焼
き方で焼くとか、そういうものを入れるというのはとてもいいと思う。ぱっ
と見の印象が全く別なものに見えるというか、違和感、全然違うものが何
か無理やりくっついていてというふうな見え方になるとちょっと残念だなとい
うふうに思っている。委員の皆さんがどんなふうに思われているか、ちょっ
とお考えもお聞きしたい。

○森次行政経営課長

意匠の件については、対比的調和というポリシーでやっており、対比的調和
の中でも調和ということは必要なのであろうと理解している。

いろんな考え方があるとおっしゃった点については、東京中央郵便局や、
しいのき迎賓館のような、古いものを残しながら後背部に新しいものを建て
て、外観上、見た目上、明らかに対比といった公の施設もあるため、そ
ういった事例も参考にしながら今回この設計を進めてきた。

○中村委員

資料の3ページの右側に、保存部分と増築部分の立面図があり、保存部分
の窓の並びのリズムみたいなものがかなり特徴的で、整然と並んでいる
様子が歴史を感じさせるという感じがするが、増築部分で壁面にライン
が縦、横に走っているが、これはスラブの位置、高さを示しているとい
うことによろしいか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

そのとおりである。

○中村委員

縦のラインは何を示しているのか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

縦も横も、コンクリートの打継目地と、それから縦はひび割れ防止の亀裂誘発目地を表現している。

○中村委員

意匠的なものというよりも機能的な面が強いということか。多分昔の建物と今の建物でいろんな部材の規格とかが違うため、印象や見た目をそろえるためには、いろいろ無理をしないとイケないのではないかなという気がするが、ただ、ぱっと見の印象っていうところかというと、横の線とか縦の線とかが、旧棟の窓のリズムとか比率とかみたいなものとかどこか一部揃っていると、それだけでも結構一体感みたいなものは出るのではないかなと、今、高田委員の話聞いて思った。何かラインの入れ方がそこでなければならぬ理由がなければ、多少、ピッチみたいなものとかを取り入れるというアプローチもあるのかなと思いましたが、それはやろうと思ったらできるということか。

○設計業務受託者（株式会社山下設計 箴島氏）

今の御意見は参考にさせていただいて、割りつけとかその辺は実施設計の中で検討していきたいと思う。

○塚本委員

建物そのもののこととは違うが、平和に関する知の拠点というのをもっと伝わりやすくするために、見える形として何かアートとかモニュメントで訪れた人に伝えられたらなと思った。その材料として解体したものを使って、例えば市民参加型で造れば、単なるオブジェではなくて記憶として残るし、広島市内でアートとかそういうものがたくさんあればいいなと常に思うので、何かそういうものが欲しいと思う。

○森次行政経営課長

今時点で予定しているものとしては、展示室で平和につながる作品を展示するとか、例えば広島市立基町高校の生徒が原爆の被爆の惨禍を絵にしているが、そのようなものも、平和に関する展示ということで、情報発信というのは一つ考えており、今後どういったことができるのかを考えていきたいと思う。

○今川委員

基町高校は基町高校で別途に美術館のほうに自分たちの作品を展示しており、それを一般公開もされており、作品を取り合うことになってしまうため、広島市は毎年、夏休みに子供の平和の絵を集めていると思うが、返却がないため多分お持ちだと思う。そのようなものを、一年ごとに展示を変えるなど、大事な平和の資料や資源を、別の施設と取り合うのではなくて、市が独自で集めているものをここに活用するというふうに、市の取組の中で縦割りになっていて日の目を見ないものというのを活用してもらいたいと思う。

新旧の融合ということで議論があったが、例えば広島城を改修するに当たって、時代の違いを石の磨き方で表現するとか、同じ素材だが石の磨き方で区別するとか、そういうふうな観点で、より融合する形で、同一、同化するような形での歴史的な違いというのを、時代の違いというのを見せようとしているが、今回はそれを何か対比というか、相反するもので見せていくというふうなやり方で、個々にいろんなことを取り組まれているが、それぞれで全部その方針が違ってしまうと、広島市はどういうつもりなのかみたいと感じてしまう部分がある。多分これとは全然関係なく、思いというか感想になると思うが、広島市がいっぱい良い取組をされているのに、あっちではこう、こっちではこうみたいな方針が異なるということも、もう少し考えてもらえたらうれしいなと思う。

○森次行政経営課長

基町高校というのは例えばということで、限定するものではないということと、あともう一つは、ここの施設と平和記念資料館等とのすみ分けというのも、意識しながら進めていく必要があると考えている。

○田中座長

先ほど塚本委員のお話は外をイメージされての内容だったかと思うため、少しその辺り御配慮いただければいいのかなと思った。

○吉田委員

この建物の正式名称はいつ頃決まるのか。建物の銘板はどこにつくのか。この建物は複合の建物のため、市立大学の平和研究所だとか広島大学の平和センターとか、いろんな名称がこの建物の中に出てくるはずである。旧理学部一号館、保存部分に対しての名称とその銘板。取付けの場所は結構重要だと思っているため、その辺の計画も合わせて進めていただきたいと思っている。

○森次行政経営課長

施設の最終的な完成が、令和16年度末を予定している。今、吉田委員がおっしゃった名称というのは、複合施設だけに我々も気になっており、検討したいと思う。

○角倉委員

先程の高田委員からの件で、対比的調和ということであれば、やはり何が新しいのかというのをきちっと明確にしたほうがよく、やはりある程度、最先端とまでは言わないかもしれないが、ハード、ソフト系の技術も含め、あと区別をするのか継承させるのかということ、新旧の融合というところをきちっと整理されておいたほうがよい。というのが、そこがあまり対比的調和と言いつつされていないという印象を持っているため、何となくビルがくっついている印象である。そういうことではないのかなと。やはりそのデザインのコンセプト上、対比的調和というのはこういう整理だというものがないと、高田委員が思われたようなことが、恐らく市民の方も思われるのかなというふうに思う。だからこそ中村委員がおっしゃられていたのは、窓の配置だけでもある程度継承させる、そこに用いる窓のサッシに関しても同様のものを使いながら、現代的に置き換えられるということだと思うため、それをうまく組み込みながらファザードというものの計画と組み立てていただけたというのが現実的なやり方なのかなというふうに思っている。

外壁は打ち放しということだが、やはり技術的に新しいかと言われたら、全然新しいわけではなく、この辺りのファザードを表現するときの技術を含め、やはり新棟の部分にどれだけ新しい、どういう新しい技術をハード的にも、ソフト的な空間のレイアウトにしてもそうだが、ソフトを含め新しいものを取り込んでいくのかということ、きちっと整理されるというのがよいのではないかと思う。それがあれば何か納得感が出てくると思うため、そのように進めてもらえたらいいのではないかと思う。

○井上施設整備担当課長

事業課、主管課からの命を受けて設計・工事を進めていく中で、予算の制約は気にする必要がある。今も報道されているが、63億が129億と倍になっており、すごく気になっている。ただ、皆さんの平和への関心が非常に強く、市長もやろうというふうな思いを持っていただけており、国際平和文化都市・広島というところを強く感じていただけていると思う。しかしながら、コストは非常に大切であるため、先生がおっしゃられたことを踏まえ、第3回の会議に向けて設計者と検討させていただけたらと思っている。

○田中座長

それでは最後、私のほうでまとめさせていただく。

まず1点目は、別の大学だが、同じテーマの研究をされている学生さんや研究者の方々が集まられるということなので、そこで一足すーが二以上になるというようなことを考えたときに、気軽にコミュニケーションができるスペースというのが必要ではないかという意見があったと思う。この都市デザインアドバイザー会議の意見としてあったということ、両大学にお伝えいただけるといいのかなというふうに思った。

2点目は、特に新築される部分と、残さず解体する部分、そこでも既存材料の活用を積極的に考えていただけるとよいという意見があった。

3点目は、インテリアの部分について、例えば象徴的な部屋を残しておくなど、内部のデザインが大事といった意見があった。

4点目は、屋上のシンメトリーの、ハイサイドライトのシンメトリーの部分について確認いただきたい。

5点目は、窓のサッシについて、既存部分とマッチするような形でという意見があった。

6点目は、北側テラスの公園側のデザインの工夫について意見があった。

7点目は、中村委員から、人が見えるということが大事なのではないかという御意見があった。都市デザインという観点からも、「人け」が人を呼ぶというふうに我々はよく言っているが、「人け」が見えるということはやはり大事だと思う。そこに来られる方や、そこで働いている方が公園から見えるというようなことが、特に都市デザインアドバイザー会議という観点からいうと大事だと思う。やはりこのような町なかで、公園のすぐ近くにあるということの意義ということから考えると、そういったところが大事だと思う。また、屋上や3階に上がれるということは、確かに楽しいだろうと思う。その辺を御検討いただきたい。

8点目は、ラウンジ含め、1階平面のバリアフリーのところに関しては、先ほど御指摘もあり、事務局のほうからもお話しいただいたが、動線も含めて御検討いただきたい。

9点目は外観に関して、コストの制約の範囲内ということにはなるかと思うが、まだ委員の皆様の間で違和感が少し残っている点については、今後のプロセスの中で御配慮いただきたいと思った。

10点目は、塚本委員から、屋外の、特に公園との間辺りに、オブジェのような、見える形で何かあるとよいと意見があった。

11点目は、最後、吉田委員から御意見があった銘板について。確かに必要かなと思った。特に10点目、11点目、塚本委員から御意見いただいた点と吉田委員から御意見いただいた点、この2つはやはり大事だと思っており、要は公園側からどう見えるのかという点に御配慮いただけるとよいと思うし、ここに何があるのかということが見えるようになっているということが大事なのかなと思った。

以上、11点について、先ほどお話しいただいたように、ある程度制約がある中でということになるかと思うが、御配慮いただきたいと思う。

○今川委員

7点目の3階に上がれるプランについて、3階には研究施設というか研究機関になることから難しいと思うため、特別な日だけでもよいので、屋上に上がったらいと思う。

○森次行政経営課長

屋上については、これまでの設計業務の過程で大学等と協議をしてきており、2、3階はあくまで研究教育のゾーンということで、そのための適切な研究教育環境を維持するという点において、屋上の一般開放はあえてしていないということを補足させてほしい。

○田中座長

それでは、本日の議事については以上である。